

分科会名 <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 体育科 </div> 令和4年6月15日（水）	会 場 川崎市立小倉小学校 助言者 川崎市立小学校 体育教育研究会会長 <div style="text-align: right; padding-right: 20px;"> 田村 光司校長先生 </div> 川崎市総合教育センター 門口 知弘指導主事 授業者 川崎市立小倉小学校 有川 亮介 教諭 司会者 川崎市立幸町小学校 木戸 祐輔 教諭 記録者 川崎市立東小倉小学校 内田 達也 教諭 世話人 川崎市立東大島小学校 吉田 祥子 教諭 出席者数 90名
---	--

1 提案の概要

6年 ボール運動 ゴール型「バスケットボール」
 ～ボールと気持ちをつないで、みんなでゴールをめざせ～

- ・めあてをもつことの大切さを理解し、学習につなげていく。
- ・シュートをする楽しさを十分に味わうために、安心してシュートができるルールの工夫。
- ・チームで課題を解決するための時間の確保とICTを活用した手立て
- ・ハーフコートのバスケットボールとチーム編成
- ・安全に配慮した用具の工夫

2 研究協議の概要

めあて・作戦について

- ・チームスポーツで個人のめあてをもたせることの難しさ。指導者は子供にどのような手立てをとって、めあてをもたせているのか。また、その把握の仕方も難しさがある。
 →指導者は各チームに寄り添い、事前に作戦やめあてを確認することである程度把握して、そのチームや個にあった声掛けをしていた。

ルール・場の工夫について

- ・ルールや場の工夫として単元のはじめにはポストエリア、ポストマンというものがあつた。安心してシュートができるルール・場の工夫となっていた。しかし単元の後半ではそれらは必要感が薄れていった。それは、子供たちがポストマンやポストエリアがなくてもゲームが楽しめると思ったからである。事前に決めたルールをこのように子供の実態に合わせて変更していくことも、大事になってくる。

ハーフコートゲームでのバスケットボールについて

- ・学級の人数や場の広さなど理由で今回はハーフコートでの攻守交替型のバスケットボールが行われていた。しかし、高学年のゴール型は「攻守入り交じり型」のゲーム展開が内容の取扱いで示されている。仕方ない部分もあるが、「攻守入り交じり型」のゲーム展開も行うとよい。

3 今後の課題

【川崎市立小学校体育研究会 体育教育研究会会長 田村 光司校長先生】

- ・すべての子供に対して、体や心に優しい体育学習を目指してほしい。本時の学習では、それが見られた。
- ・体育の授業に心を開けない子供たちに対して、①多様な楽しさの提供②楽しみ方の見直し③指導者の意識改革などを今一度授業者側が考えていかなければならない課題がある。
- ・教師は「教える」→「ファシリテートする」授業を展開していく必要がある。

【川崎市総合教育センター 門口 知弘指導主事】

- ・自分で課題を見付けるのが難しい子には「もっとやりたい」「もっと上手に」「相手に勝つ」「どうすれば勝てる」「なぜ負けた」などの課題を多様な他者と協働しながら考えていくとよい。
- ・全員が楽しめるためのルールの工夫について
 その種目特有の攻防の間に成立している「攻守のバランス」がある。このバランスを保つためには、難しそうな技術やルールについてのみ排除する工夫はあまりよくない。それよりも児童に必要感を感じさせ、「めあて」をもたせることが大切。また、教師がすべて工夫を提示するのではなく、提示しながらも工夫の余地を残しておくもよい。

※当日使用したパワーポイントの資料を、川崎市立小学校体育研究会 各支部のクラスルームに掲載予定です。

